

日本史

I

解答

問1. 1—⑧ 2—④ 3—⑦

問2. ① 問3. ④ 問4. ③

問5. ② 問6. ② 問7. ④ 問8. ①

解説

《律令国家の形成》

問2. ①正文。②誤文。広開土王（好太王）碑に記されているのは、4世紀末（391年）の倭と高句麗の交戦である。③誤文。527年、筑紫国造磐井は新羅の支援を受けて九州で反乱を起こした（磐井の乱）。④誤文。高句麗は、唐・新羅の連合軍により滅ぼされた。また、高句麗の滅亡は6世紀ではなく、7世紀（668年）のため、時期も誤り。

問3. ④誤文。607年、隋に派遣された小野妹子が持参した国書は、中国皇帝に臣属する形を取らなかった。また、倭の五王以来途絶えていた中国との外交の再開は、最初の遣隋使派遣時の600年である。

問4. ③が正答。乙巳の変後、都は飛鳥から難波に移された。①は大津宮、②は平安京、④は藤原京である。

問6. ②誤文。天武天皇は八色の姓を定めて、豪族を天皇中心の身分制度に再編成した。氏姓制度は、ヤマト政権の政治制度である。

問7. ④正文。①・②・③誤文。大宝律令の施行は文武天皇、庚午年籍の作成は天智天皇、淳足柵・磐舟柵の設置は孝徳天皇の時である。

問8. ①誤文。飛鳥文化の彫刻である法隆寺金堂釈迦三尊像は、北魏様式である。中国南朝（梁）の影響が見られる飛鳥文化の彫刻としては、中宮寺半跏思惟像や法隆寺百済観音像などがある。

II

解答

問1. 11—⑥ 12—⑦ 13—①

問2. ① 問3. ② 問4. ③

問5. ④ 問6. ② 問7. ④ 問8. ③

解説

《鎌倉文化》

問2. ①が正答。②の『土佐日記』は紀貫之、③の『徒然草』は兼好法師、④の『方丈記』は鴨長明の作品であることから、消去法を利用して①の『玉葉』を選びたい。『玉葉』は、九条兼実の40年間におよぶ日記で、平氏の最盛期から鎌倉初期までの出来事が記されている。

問3. ②が正答。親鸞の教えは悪人正機であるため、史料の「悪人」をヒントにして正答を導きたい。なお、①は『愚管抄』、②は『歎異抄』、③は『正法眼蔵随聞記』、④は『神皇正統記』の史料の一部である。

問4. ③正文。①誤文。『教行信証』は親鸞の著書。②誤文。ひたすら坐禅すること（只管打坐）によって悟りにいたると説いたのは、曹洞宗を広めた道元である。④誤文。時宗の総本山は清浄光寺。知恩院は浄土宗の総本山である。

問5. ④誤文。南宋から来日した無学祖元が円覚寺の開山となった。桂庵玄樹は室町時代中期の臨済宗の僧で、西日本各地で儒学を講じ、島津氏の招きで薩摩国におもむき、薩南学派を形成した。

問7. ④誤文。日蓮は鎌倉時代の人物であるため、室町時代後半（1532年）に起こった法華一揆とは時期が異なり、誤りと判断できる。

問8. ③誤文。律宗の忍性は、奈良に北山十八間戸を設けて、病人の救済に尽力した。聚楽第を設けたのは、豊臣秀吉である。

Ⅲ

解答

問1. 21—④ 22—① 23—③

問2. ④ 問3. ① 問4. ①

問5. ④ 問6. ① 問7. ③ 問8. ②

解説

《享保の改革と幕藩体制の動揺》

問2. ④正文。①誤文。正徳小判は、金の含有率を慶長小判と同率にした金貨である。天正大判は、豊臣秀吉が鑄造させた贈答用の金貨である。②誤文。正徳の政治では、朝鮮から派遣された通信使の対応が簡素化された。慶賀使は、徳川将軍の代替わりごとに琉球から江戸に派遣された使節である。③誤文。長崎貿易を制限するために、海舶互市新例が出された。

問3. ①正文。②誤文。『経済録』は、荻生徂徠の門人である太宰春台の著書。荻生徂徠の代表的な著書は『政談』が知られている。③誤文。朱子学者の林羅山を登用したのは徳川家康で、羅山は家康・秀忠・家光・家綱の4代の侍講となった。④誤文。『民間省要』を著したのは田中丘隅。大原幽学は19世紀に活躍した農政家で、下総で相互扶助による農村復興を行った。

問4. ①誤文。8代将軍徳川吉宗は、増収をはかって上げ米を実施するかわりに、参勤交代の在府期間を半減させた。

問5. ④誤文。服忌令を出したのは5代将軍徳川綱吉である。なお、③は足高の制について述べた文である。

問7. ③が正答。徳川吉宗は、米価の平準化をめざすために大坂の堂島米市場を公認した。

問8. ②誤文。江戸時代前期（17世紀後半）には代表越訴型一揆が増え、下総の佐倉惣五郎などの義民が生まれた。二宮尊徳は19世紀に活躍した農政家で、報徳仕法と呼ばれる農村復興策を創始したことで知られている。

IV

解答

問1. 31—① 32—⑧ 33—⑥

問2. ② 問3. ③ 問4. ④

問5. ① 問6. ④ 問7. ③ 問8. ②

解説

《幕政改革と欧米列強の接近》

問2. ②誤文。漢訳洋書輸入の制限が緩和されたのは、徳川吉宗が推進した享保の改革の時である。

問3. ③正文。①誤文。松平定信が推進した寛政の改革で出稼ぎ農民の帰村を奨励した法令は、旧里帰農令。棄捐令は、旗本・御家人救済のため、札差への借金を破棄させた法令である。②誤文。松平定信は、石川島に人足寄場を設けて、収容した無宿人に職業指導を行った。医療施設の小石川養生所が設けられたのは享保の改革の時である。④誤文。「聖堂学問所以外」が誤り。寛政異学の禁は、朱子学を儒学の正学とし、聖堂学問所での異学の教授を禁止した。

問4. ④正文。①誤文。オランダ船が入港するたびに、オランダ商館長はオランダ風説書を幕府に提出し、海外の情報を伝えた。②誤文。鎖国体制

下では、中国人商人は長崎郊外に設置された唐人屋敷に集住させられた。

③誤文。「尚氏」が誤り。朝鮮とは対馬藩主宗氏を介して貿易などが行われた。なお、尚氏は琉球王国の王家である。

問5. ①正文。②誤文。宝暦事件が起こったのは1758年で、徳川家斉の時代（将軍在職1787～1837年）よりも前の出来事である。③誤文。家斉は、将軍職を子の家慶に譲った後も、大御所として実権を握り続けた。④誤文。家斉の時代は、江戸を中心とする化政文化が開化した。上方を中心とする元禄文化が開化したのは、5代将軍徳川綱吉の時代の頃である。

問8. ②誤文。1837年、大塩平八郎は天保の飢饉に対して有効な窮民救済策をとらない大坂町奉行や米の買い占めを行う豪商に憤慨し、同志らとともに大坂で武装蜂起した（大塩の乱）。